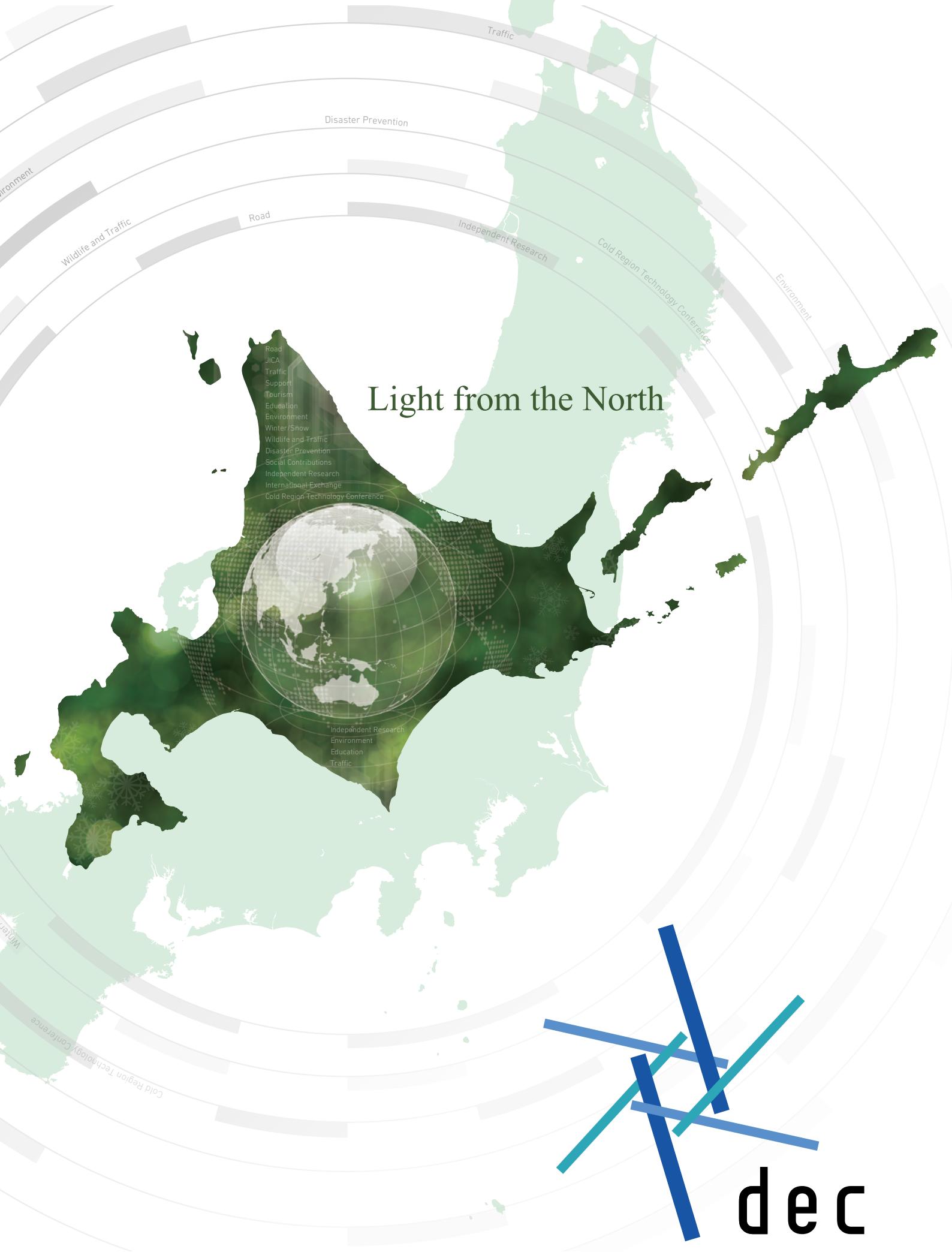


Light from the North

dec



Light from the North



GREETING



一般社団法人 北海道開発技術センター
理事長 橋本 幸

北海道は、広大な土地と豊かな自然に恵まれ、明瞭な四季を有する魅力的な地域であり、それらを生かして、農業、酪農・畜産業、水産業といった日本の食を担う一次産業や国内外からの人気の高い観光を支える産業などが展開されております。その一方で、市街地や集落が広域に分散して存在し、加えて過疎化が進むことによって生じる生活利便性維持への苦慮、日常における雪と寒さの克服、大雪などの自然災害への対応など、北海道、とりわけ地方の市町村におけるコミュニティの維持の問題は深刻さを増している感があります。

一般社団法人北海道開発技術センター(dec)は、積雪寒冷地域である北海道の地域課題をテーマに、道路交通や建設技術、野生動物のロードキル対策、激甚化する災害への対応などの寒地技術の進化を目指した調査・研究、北海道の魅力を際立たせ、地域に愛着をもって生き生きと暮らすための地域活動の下支えなどに取り組んでおります。北海道の比類のない魅力や可能性を武器として、直面する逆境をはねのけて、日本の「食」と「観光」を担う北海道の「生産空間」の維持に貢献する調査・研究を進めます。

北海道の自然・文化・歴史等の活用やコミュニティを通じた観光まちづくりなどを行うためには、地域活動を支える方々の存在が必要不可欠と言えます。建設業界の方々のご尽力も大きいと思います。関係の皆様の長年にわたる努力によって成された活動の土台や関係性を維持・発展するための取り組みを引き続き行ってまいります。

decは、昭和58(1983)年に社団法人として設立され、平成24(2012)年に一般社団法人となりました。今後も社会変化を見据え、時代の要請を踏まえた重要な課題に向き合う調査・研究に取り組んでまいります。



光は北から

様々な分野の英知・技術を集結し、寒地開発技術・国際交流を通じて
明日の北海道そして世界へ貢献します。

名 称：一般社団法人北海道開発技術センター(Hokkaido Development Engineering Center)

代表者：会 長 高野 伸栄

理事長 橋本 幸

設 立：1983年4月

所在地：〒001-0011 札幌市北区北11条西2丁目2番17号 セントラル札幌北ビル

T E L : (011)738-3361 (総務部) (011)738-3362 (企画部)
(011)738-3363 (調査研究部) (011)738-3364 (地域政策研究所)

【旭川サテライト】

(0166)35-5731

〒078-8391 旭川市宮前1条4丁目15番31号 大雪通ビル2階

【函館サテライト】

(0138)54-3619

〒040-0001 函館市五稜郭町31番8号 五稜郭センタービル3階

【十勝サテライト】

(0155)66-6255

〒080-0016 帯広市西6条南6丁目3番地 ソネビル本館2階

U R L : <http://www.decnet.or.jp/> E-mail : dec_info01@decnet.or.jp

登 錄：建設コンサルタント登録番号(建04第4859号)

特 許：「走行支援システム及び走行支援方法」(特許第4793571号)：冬期吹雪対策の特許

「吹きだまり予測モデルの構築方法、吹きだまり予測方法及び吹きだまり予測装置」
(特許第6535260号)：道路上の雪の吹きだまりに関する特許

「忌避装置及び忌避方法」(特許第6858076号)：エゾシカロードキル対策の特許

職員数：70名(2025年6月1日現在)

有資格者数(2025年6月1日現在)：

技術士 28名 (総合技術監理部門: 5名 建設部門: 22名 環境部門: 1名)

RCCM 8名

一級土木施工管理技士 11名

工学博士 5名

法人概要

設立目的

北海道の未来の発展に向けて寒冷地域としての特性を踏まえながら、広く道内外にわたる関係分野との連携を強化しつつ寒地にはぐくまれた建設技術並びに地域及び都市計画の進歩発展を図るとともに、開発事業等の諸問題について、政策の提言、計画・調査及び研究を行い、もって北海道の健全な発展に寄与することを目的にしています。

受託関連

Consignment Projects

寒地開発技術の発展や国際社会の繁栄等、設立目的に即した事業として、道路、交通、環境、観光、教育、防災、国際協力等の事業を受託し実施しています。



観光

Tourism

「観光先進国」の実現に向け、decでは地域をサポートしながら観光振興策の検討をしているほか、増加する訪日外国人に対し、観光情報の提供や外国人観光客への支援システム等の調査を行っています。また、公共施設等を巡るインフラツーリズムや、自転車走行環境の改善、受入環境を充実させるための方策など、サイクルツーリズムの推進に向けた検討を行っています。

- インバウンド観光関連調査
- インフラツーリズムの推進調査
- サイクルツーリズムの推進
- 北海道アドベンチャートラベルの推進



冬・雪

Winter/Snow

積雪寒冷地である北海道は冬期間、吹雪による視程障害、凍結路面等の過酷な状況下に置かれます。decでは、これら自然的要因等から発生する冬期交通の課題解決に向けた取り組みを行っています。また、雪国における共助等による除排雪体制の整備や、除排雪作業中の安全確保等に関する検討を行っています。

- 吹雪対策高度化検討
- 冬期道路交通等に関する調査・計画検討
- 共助除排雪体制等に関する検討調査



環境

Environment

交通技術の発展とともにエゾシカと車の衝突事故が増加するなど、野生動物と交通に関する問題が年々顕在化しています。また、decでは自動車交通を主な原因として発生するCO₂の削減策の検討を行っています。野生動物保護とCO₂削減策、そして交通安全面からの課題解決に向けた取り組みを行っています。

- ロードキル関連
- 道路緑化に関する検討
- カーボンニュートラルの検討



交 通

Traffic

北海道は都市間距離が長く、公共交通機関の脆弱さから自動車に大きく依存しており、高齢化が進行している人口低密度地域を中心に、地域公共交通を維持していくことが大きな課題となっています。このような中、decでは地域公共交通のあり方を積極的に検討しています。

■モビリティ・マネジメントに関する施策検討

■地域公共交通の活性化策及び利用促進の検討



教 育

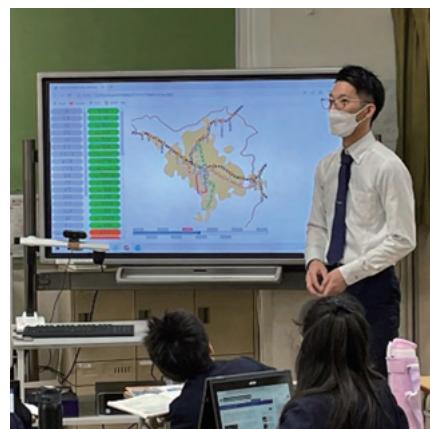
Education

社会資本整備や地域づくりの意義を認識してもらうためには、初等中等教育での学校教育が大きな重要性を持っていると考えています。decでは、地域づくりに関心を持つ契機を創出するため、北海道の魅力や個性について幅広く学ぶ取り組みである「ほっかいどう学」の展開を支援しています。学校や地域、行政と連携し、学校教育の中での社会資本等に関するカリキュラムや教科書のあり方などを検討しています。

■地域づくり学習に関する検討

■雪学習プロジェクト運営

■交通学習プロジェクトの検討



道 路

Road

地域住民と協働で沿道景観の向上や道路維持管理、道路空間の活用等について話し合い、今後のみちづくり、まちづくりに関する調査研究を行っています。また、道路事業の設計や施工に関する法規、各種指針・基準等の改訂に向けた検討を行っています。

■協働型道路マネジメント

■道路設計要領の改訂



防 災

Disaster Prevention

北海道は、地震・津波・台風・洪水・高潮・火山の噴火・豪雪・雪崩など自然災害の発生が多い地域です。decでは、防災教育メニューや教育ツールに関する調査研究を行っており、様々な関係機関・団体と連携して、地域防災力向上に関する検討を行っています。

■防災教育

■地域防災力の向上検討



行政支援

Support

道路事業(改築事業、維持事業等)の実施に必要な地元及び関係機関との協議を行うための資料作成や道路事業に関連する基礎資料の作成等を通じ、道路行政の円滑な推進に寄与しています。

本業務の実施にあたっては、道路事業全体の流れや道路関連施策、道路関連技術に精通している必要があります。また、道路行政を補助する業務であることから、業務担当者は法令遵守及び守秘義務等を徹底し、特定の利害関係によらない中立・公平な立場で業務を遂行することが求められています。



国際協力

JICA

政府開発援助(ODA)は、その形態から二国間援助、国際機関への出資・拠出(多国間援助)に分けられ、JICAはこのうち二国間援助の形態である技術協力・有償資金協力・無償資金協力を担っています。

decでは、開発途上国における北海道企業の事業の形成や事業展開の方向性を検討し、開発途上国が抱えるさまざまな課題解決に向けて北海道の技術を活用した貢献策を検討しています。



寒地技術の進化を目指した数々の調査研究事業の他、シンポジウムの開催など幅広く広報・国際交流事業を実施しています。



Cold Region Technology Conference

寒地技術シンポジウム

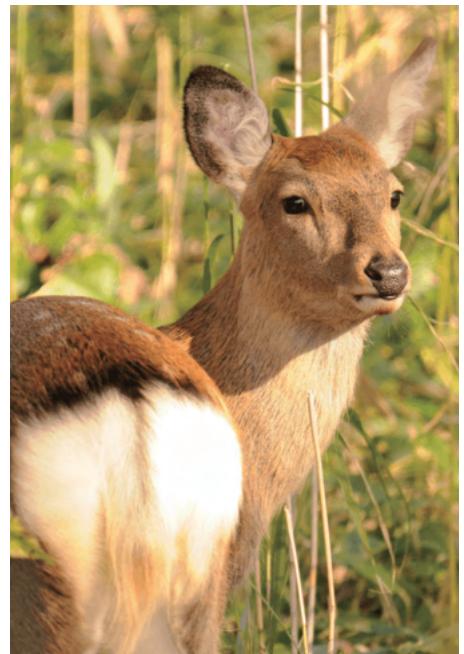
寒地技術シンポジウムは、積雪寒冷地の産業・経済の発展、そして北国・雪国の個性的な生活文化の構築をめざし、積雪寒冷地におけるさまざまな分野の技術情報交流を目的として、1985年から毎年開催しています。論文募集テーマは、雪氷物理、積雪寒冷地構造物から、北国の文化、観光、地域振興など幅広く設定しており、異分野間での交流も目指しています。



「野生生物と交通」研究発表会

Wildlife and Traffic

交通技術の発展は、野生生物と人間生活との接触機会を増やし、結果として様々な影響が顕在化しています。エゾシカと自動車の衝突事故などはその例であり、野生動物保護と交通安全両面の課題になっています。また、外来生物による生態系への影響が懸念され、緑化活動においても極力自生種を導入することなどが求められています。本研究発表会は、個々に扱われがちな「野生生物」と「交通」に関する知識の情報交換の場を提供するため毎年開催しています。

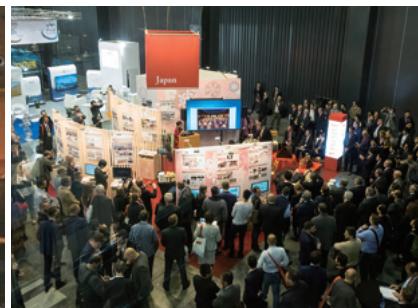


国際交流

International Exchange

積雪寒冷など北海道と気候や風土の類似している北方圏の諸地域と寒地技術の交流を通じて、decは寒地技術の一層の発展と寒地の豊かな生活環境の創造に努めています。

- 日中冬期道路ワークショップの開催
- ISCORD(寒冷地技術に関する国際シンポジウム)への参画
- TRB、PIARC等 冬期道路に関する国際会議への参加



社会貢献

Social Contributions

沿道の環境を守り活用する団体への支援事業

シニックバイウェイ北海道における活動団体等の景観保全や環境保全および、その活用に積極的に取り組んでいる地域団体への支援を行っています。

インターンシップ制度

大学生、大学院生を対象に、働きながら調査研究をする機会を提供しています。

「ウィンターライフ推進協議会事務局

積雪寒冷地の冬を安全、安心、快適に過ごし楽しむための環境づくりを推進しています。

アイヌ文化の普及・啓発

北海道の先住民であるアイヌ民族の伝統・文化への理解を深めるためdecでは、アイヌ語地名研究会に依頼してアイヌ文化およびアイヌ語地名の勉強会を開催しています。



自主研究

Independent Research

積雪寒冷地の社会環境の向上を目指し、様々な視点から調査研究活動を実施しています。

雪氷障害に備えた安全な社会基盤に関する研究

地域コミュニティを通じた地域振興及び観光まちづくりに関する調査研究

モビリティ・マネジメント(MM)や新技術を活用した公共交通の維持・発展に関する調査研究

北海道の自然・文化・歴史等を活用したツーリズムに関する調査研究

ほつかいどう学の推進に関する調査研究

野生生物との共生に関する調査研究

北海道の地域防災に関する調査研究

将来の北海道開発に関する調査研究 等



コンプライアンス実施体制

Compliance

近年、企業・団体のコンプライアンスが重要視されています。コンプライアンスは法令遵守だけに留まらず、企業倫理、社会貢献等の環境の取り組みまでを含んでいます。

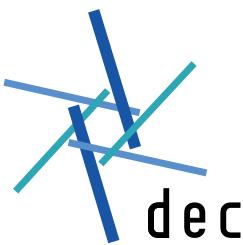
decでは、行動指針、規定、管理を行うための組織体制を確立しています。

個人情報の保護に関する方針

Privacy Policy

調査研究活動等に関連してご提供いただいた個人情報については、適切な保護に努めています。

- ・個人情報に関する法令等の遵守
- ・個人情報の取得、利用及び提供
- ・個人情報の安全管理に関する措置
- ・個人情報の開示等及び苦情、相談等への対応



多視点、という、未来志向

あらゆる角度から、ものごとを捉える視点。

問い合わせだし、課題の本質を探求し、それぞれの人の立場を理解し並んで歩む視点。

これからの地域や社会のために必要な、多視点をもっています。

さまざまな人の思いは、わたしたちが関わることで、延伸し、交差し、
ひとつの美しいかたちをつくりだすことで、輝きを増します。

Hokkaido Development Engineering Center

一般社団法人 北海道開発技術センター

〒001-0011 札幌市北区北11条西2丁目2番17号 セントラル札幌北ビル

【総務部】TEL (011)738-3361

【企画部】TEL (011)738-3362

【調査研究部】TEL (011)738-3363

【地域政策研究所】TEL (011)738-3364

【旭川サテライト】

〒078-8391 旭川市宮前1条4丁目15番31号 大雪通ビル2階

TEL (0166)35-5731

【函館サテライト】

〒040-0001 函館市五稜郭町31番8号 五稜郭センタービル3階

TEL (0138)54-3619

【十勝サテライト】

〒080-0016 帯広市西6条南6丁目3番地 ソネビル本館2階

TEL (0155)66-6255